

**製品名: IKK アルファウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe04046**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW: 85 kDa; Observed MW: 85 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CHUK
別名	CHUK; IKKA; TCF16; Inhibitor of nuclear factor kappa-B kinase subunit alpha; I-kappa-B kinase alpha; IKK-A; IKK-alpha; IkBKA; IkappaB kinase; Conserved helix-loop-helix ubiquitous kinase; I-kappa-B kinase 1; IKK1; Nuclear factor NF-kappa-B
遺伝子 ID	1147
SwissProt ID	O15111
免疫原	ヒト IKK アルファの合成ペプチド

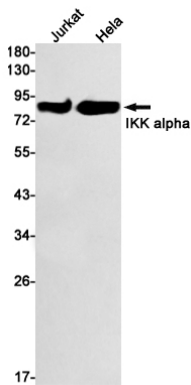
## 背景

炎症性サイトカイン、細菌またはウイルス産物、DNA 損傷、その他の細胞ストレスなど、様々な刺激によって活性化される NF- $\kappa$ B シグナル伝達経路において重要な役割を果たします。IKK の活性化は、IKK $\beta$  の活性化ループにおける Ser177 と Ser181 (IKK $\alpha$  では Ser176 と Ser180) のリン酸化に依存しており、これにより構造変化が引き起こされ、結果としてキナーゼが活性化されます。

## 研究分野

シグナル伝達

## 画像データ



IKK アルファ抗体を使用した、Jurkat、HeLa 溶解物中の IKK アルファのウェスタンブロット分析。